

シリーズ「授業風景1」

～「人権学習」の実際～

2024・10・23 重枝 一郎

集団生活の中で発生する人間関係の相互作用は、すべてエクササイズであり、小手先のエクササイズだけでは、効果を生み出すことはできない。私の本の中に、実際の私の「授業風景」をライブ風に紹介してくれているページがある。その1つを8回に分けて紹介しようと思う。ちょっと長くなるし、参考になるかわからないが、一つの実践例として読んでみてほしい。《気楽に読んで・8回シリーズ》

その前に・・・

各クラスで持ち味があることは、ある意味ではいいことだが、指導内容・方法の悪い意味でのバラバラは、生徒指導体制の混乱を招く。これでは、生徒と教師との信頼関係は築けない。

だから、学年集会は効果的である。教師の同僚性にもつながる。これは、定期的であったり、特設であったり、また、教師主導であったり、生徒主導であったり、目的に応じてさまざまである。共通したねらいは、多くの人と共通理解を図ることである。

シリーズ「授業風景」は、学年集会での実際である。

生徒が学年集会を「学ぶ場」と意識できるように、「学びの集会」を仕組んでいく。ポイントは、「活動」「気付き」「楽しさ」「承認」「達成感」等である。

今回の「授業風景」は、昔、ある中学校から学年の特設人権学習を依頼されて行った出前授業である（授業動画もある・見たい人は言って）。私は、「人権教育の知的理解」についてはその学校でやりたいことがあると思ったので、「人権感覚」の部分をやろうと思った。「人権感覚」は日常の積み重ねが大切であることは言うまでもない。だから、特別な授業ではなく、日常生活のそのままを振り返り、本当にみんなが幸せなのか、どうしたら自分も幸せになれるのかを、学級目標や日常の会話から考えるといった、「**自他の幸せを考える時間**」にした。

ただ、このように授業をするときには、教師の授業をコントロールする力が必要である。その場所の「空気づくり」が大切になる。「空気」とは、その場所にいる人や物等の無数の要素が現在進行形で相互作用を及ぼし合いながら生まれる。

「授業風景」を読んでいただくときに、「活動」「楽しさ」「気付き」「承認」「達成感」を媒介として、この「空気」がどんな「語り」で生まれているのかをポイントにして読んでもらいたい。

私がどのようなビジョンをもって授業を進めているのか、そして、意識的に、生徒の「感情」に訴え、「行動」を促し、「意味」を納得させる働きかけをしているのかを伝えたい。だから、授業中の生徒たちの様子や授業後の効果が、教師の意図するものになっていなかった場合は、この相互作用がうまく働かなかったとも言える。当たり前のことだが、すべての授業は常に生き物である。

それでは、「授業風景1」

これは、「生徒指導総合講座（風土会）」の講師を務めている重枝一郎先生の授業を実況中継したものです。ある中学校のある学年の特設人権学習の講師として、招かれて実践した授業です。1クラス約40人で7クラスなので、約280人を対象に、体育館で行いました。



※体育館に、クラスごと男女1列で7クラスが集合しています。
全体を笑顔で見渡して、「最初の語り」が始まります。

「このようにたくさんの方が集まって、何かをしようとするときに、何が大切ですか？」と重枝先生が尋ねると、「協力しあうことです」「団結力です」という答えが生徒から返ってきました。

重枝先生は大きくうなずき、「そうだよね、これだけの人数が協力し、団結できれば、ここで生活することが、とても幸せだと思えるよね。学校に行きたいな、みんながいるから。そんな学校にしたいよな、絶対！」と力強く話し、体育館の空気をひきしめました。

生徒とのテンポ良い対話から、ライブ感のある授業がはじまりました。

「相手の立場を考えるとわかるか？」「例えば私が、みんなと一緒に座って、みんなの中の誰かが前に出て、たった一人で話をするとしたら」

重枝先生は、サッカー部の生徒をひとり、前に立たせ、自分はその生徒の席に座りました。

その生徒は、何も話すことができません・・・。

しばらく沈黙・・・ようやく重枝先生が前に出て、その生徒をねぎらいます。

「よく立ってくれたね。はい、彼に拍手」

「ひとりで前に立って話そうとするときに、変な顔をして見たり、ハァーとため息をついたりする人がたくさんいたら、先生だってここから逃げ出したいくなるような気持ちになる。その態度は、協力っていえるでしょうか。何が団結力ですか、という話になってくる。『協力』や『団結』って、口だけですかってことになるよね」

そして、ホワイトボードに次のことを書きながら、先生の熱い語りは続きます。

人は聞いたことは 忘れる 「人っていうのは、聞いたことは忘れるんです。ちょっと想像してみてください。例えば数学の授業で、先生は黒板に何も書きません。みんなはノートに書いてはいけません。ただ聞くだけです。では、 $2X+3=7$ で、 $2X=4$ だったら、 $X=2$ になる。はい、次の問題。こんな風に、先生が話すことを聞くだけだったら、どうですか？この様に授業が続いていったとしたら、テストで何点とれますか？」

人は見たことは 覚える 「それでは、黒板に書きますよ。でも、みんなはノートには書いてはいけません。こんな授業があったとします。黒板を見ておけば、何となくは覚える。だから、黒板があるんですよ。だから先生たちは黒板に授業の内容を書いて、説明するんですよ。でも、そんなことはあたりまえと君たちは思っているかもしれない。でも、何のために黒板があるのかといったら、学びの記憶を高めるためです」

したことは 理解する 「実際に自分がしたことというのは、完全に理解します。だから、ノートに書きながら考え、考えながら書くと理解するんです。せっかく50分間、授業を受けていて、『忘れる』でいいんですか？『何となく覚える』程度ですか？ やっぱり『理解する』でしょう。だから、人の話をきちんと聞いて、ノートをしっかりとるように先生たちは言うんです」

「今から『したことは理解する』という目的で、みんなに実際、活動してもらおうと思うんだけど、真剣にしてほしい。何かただ、させられているという気分では、本当にしたことはないからね」

「それでは、誰かひとり前に出てきてくれる人はいませんか？」

《次回2に続く…》